

成果指標				
成果指標	育児相談件数			
指標設定の考え方	核家族化・コミュニティの希薄化により、子育てに関する悩みを持つ保護者が増加状況にあり、相談体制の充実と連携強化は不可欠となってきたため、育児相談件数を成果指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	22000%	22000%	22000%	220%
実績	24300%	23700%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	今後、核家族化・少子化が進んでいく中で、子育て支援は益々求められる。地域社会の動向を捉えながら、事業内容の検討を行い、地域や家庭の子育て機能の強化を図る必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子育てニーズを十分に把握し、今後の事業計画に反映し対応をする。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題